

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	諫早市手をつなぐ つくしっ子		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職を招いた療育指導の実施	外部より専門職(技術指導)を招き、実際に現場の療育活動を見ていただいた上で、直接的な指導や助言を受けている。その内容を全職員で共有し、課題の把握や支援の統一が図れるよう努めている。	支援を実践する中で細かい振り返りまで行う十分な時間の確保に努める。支援配置や職員の勤務時間数の関係から難しい現状はあるが、工夫を重ねながら支援の質の向上を目指す。
2	法人内の保育園・放課後等デイサービスとの交流活動	月1程度ではあるが、法人内の保育園との合同リズム遊びの機会を設けたり、放課後等デイサービスの行事と一緒に参加する機会がある。	交流の機会や曜日の偏りや機会の少なさがあるため、実施回数の見直しや交流機会を増やし、保育園から利用している子どももいるため、支援内容の統一を目的とした情報共有も必要であるため保育園職員との連携をより強化していく。また、園庭遊びや季節の行事を通して自発的な交流を持つ。
3	適切な支援の提供のために話し合える職場	その日の活動について振り返りの時間を作り、振り返りノートに記録し全職員共有することで次の支援につなげている。振り返りで出た内容については、翌日の療育に活かすことができている。スタッフ会議で支援や虐待、身体拘束等を議題とし話し合う場がある。	振り返りノートや会議録等で共有しているが、職員間で十分に話し合う時間を持ちたい。支援のために話し合う時間を十分取れるように更に業務改善を図っていく。職員配置により日中の外部への研修参加、事業所見学ができていない現状がある。日中の外部研修に参加できる十分な職員数の配置を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定員10名(満員)になった場合の子どもたちが安全に過ごすための物理的・人的環境設定	10名利用時に活動部屋が手狭になる為、2グループに分け例えば園庭遊びや外出活動、室内療育など活動を分けるとしても現在の職員配置では安全な支援を行うには懸念がある。	利用人数に応じて十分な職員配置を行い、利用前に活動計画を今ある環境で安全に実施できるように職員間で話し合う時間を確保する。また療育後の振り返りを行い、情報共有を行う。物理的に不要な物の整理整頓に日々取り組む。また、1階の地域交流室を使用し、広い場所での活動も取り入れていく。
2	OTやPTの専門職の配置がない	現在、OTやSTの専門職が配置されておらず、専門的な視点からの効果的な解決策や支援提供が難しい。	医療センター等の技術指導(専門職)の依頼を行い、助言を頂く機会を増やしていく。また療育研修へ参加する機会を作り、研修で学んだ事を実際の療育で実践する事ができるよう行う。
3	非常時の適応力	今年度発生した地震の際、子どもの安全確保を優先して対応することはできたが、避難経路の確保等についてより迅速な対応が必要であった。非常時を想定した実践的な訓練の機会が限られていることが要因だと考えられる。	非常時を想定した避難訓練を実施し、役割分担や避難経路の確認を具体的にを行う。また、119番通報が必要となる場面を想定し、子どもへの対応や手順について確認する。